

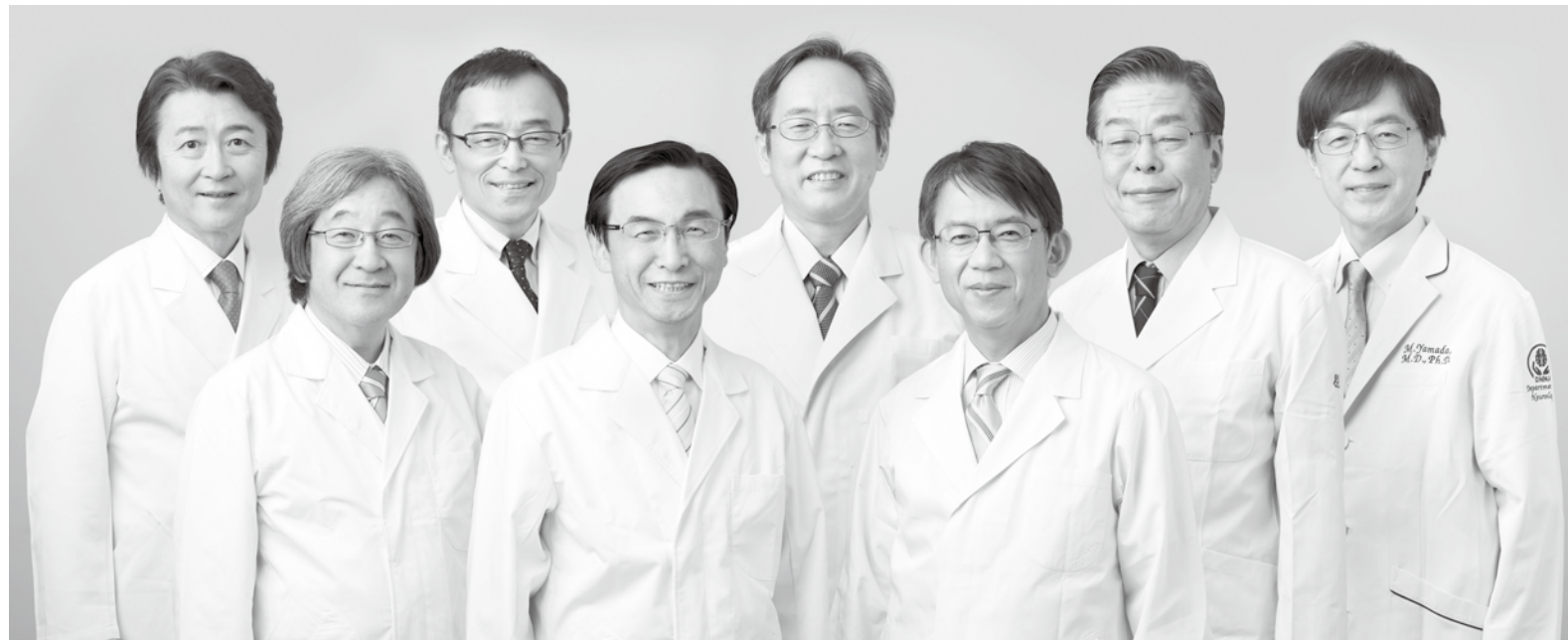
脳、神経、筋肉、感覚…神経内科は患者さんをトータルで診て最適な診療を行います

神経内科をご存知ですか？

神経内科が扱う病気は？

頭痛、脳卒中、認知症、パーキンソン病、てんかんなど、脳や脊髄、神経、筋肉などが関係する病気を見つけて治療します。

神経内科は脳、脊髄、神経、筋肉などの病気を発見・治療します。体の一部分だけを診るのではなく、患者さんの体や、動き、五感、脳の働きなど、全身をしっかりと診察して、そこに隠れる病気を見つけるのが神経内科医。体の不調を感じチェックリストのような症状がみられたら、神経内科を受診して下さい。他の診療科とも協力して、健康を取り戻す道を探ります。



「神経内科座談会」に参加したドクターたち（写真左より）
獨協医科大学 平田幸一教授、順天堂大学 服部信孝教授、福島県立医科大学 宇川義一教授、国立精神・神経医療センター病院 水澤英洋院長、九州大学 吉良潤一教授、京都大学 高橋良輔教授、国立循環器病研究センター 峰松一夫副院長、金沢大学 山田正仁教授

日本神経学会代表理事のご挨拶

水澤英洋 日本神経学会代表理事
教授 国立精神神経医療研究センター病院 東京医科歯科大学
思考、感覚、運動…
全身の調和を司る神経の
専門家です



神経は人の持つあらゆる機能、活動、行動をコントロールしています。すなわち、話したり考えたり、歩く、走るなどの運動、視覚・聴覚・温度覚・痛覚・触覚といった感覚、さらに呼吸・消化・循環・発汗など自律神経に至るまで、全てがうまく調和して機能しているのは神経の働きです。神経内科医は私たちにとって重要な神経、脳、そして全身を診るお医者さんで、頭痛や認知症など患者さんの多い病気から、稀な難病まで神経にかかわる不調を発見・治療する専門家です。

日本神経学会は、そのような神経内科医の学会で、神経疾患の克服をめざして日夜努力しています。2017年には世界神経学会を日本で開催するなど、世界のリーダーとして活躍しています。

2017年世界神経学会の京都開催決定！

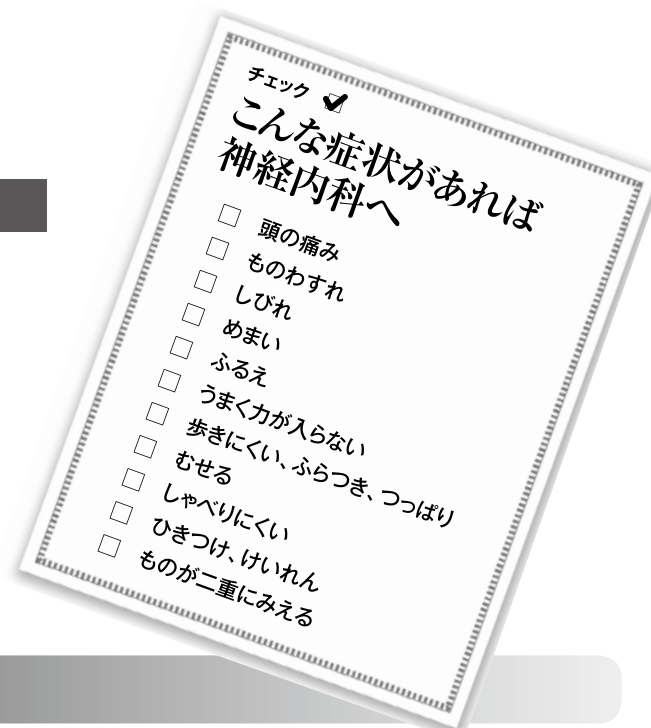
世界に発信する 我が国の神経内科



2017年、京都で世界神経内科医が参加する世界神経学会が開催されます。我が国が世界神経学会を主催するのは1981年に続いて2回目です。80年以上の歴史を誇る世界神経学会を2回主催したことがあるのはイギリス、オランダ、オーストリアの3カ国で、我が国の神経内科への世界の評価がいかに高いかがわかります。

日本神経学会は1902年に設立されましたが、精神医学が主体になってきたため、59年に現在の日本神経学会の方向に歩み始めました。僅かその3年後の62年、我が国が中心となって、アジアオセアニア神経学会を設立し、その第1回の会議を東京で開催いたしました。このように我が国の神経内科は常に世界を視野に入れて発展してきました。

今年の日本神経学会学術大会では、120人に及ぶ海外の若手研究者が参加し、多くの英語の発表があります。我が国のみならず、世界の人の健康に貢献するため、我が国の神経内科はこれからも発信し続けます。



代表的な神経内科の病気

頭痛

頭痛を苦しむ人は多数いらっしゃいます。しかし「お医者さんに行っても治してもらえない」とあきらめて、市販薬で痛みを我慢している人も多いようです。頭痛は誰にでも起こる病気ですが、その裏に命にかかわる病気が隠れている場合もあります。神経内科では、CTやMRIなどの画像診断だけでは発見



日本神経学会 頭痛セクションメンバー
平田幸一教授(獨協医科大学病院神経内科)

できない頭痛の原因を、独自の問診や診断法で探し出してあげます。たとえば患者さんの頭や顔に触れて、痛みを感じた場所を確認したりして、市販薬で痛みを我慢している人も多いようです。頭痛は誰にでも起こる病気ですが、その裏に命にかかわる病気が隠れている場合もあります。神経内科では、CTやMRIなどの画像診断だけでは発見

脳卒中

予防、診断、再発予防、リハビリ…
脳卒中を総合的にケア



日本神経学会 脳卒中セクションチーフ
峰松一夫副院長(国立循環器病研究センター病院)

神経内科医は脳卒中を発症した患者さんからリハビリテーションの患者さんまで、多岐にわたって診断や治療を行う知識と経験を積んでいます。たとえば、脳卒中になるリスクの高い患者さんへの予防的な治療や、アドバイス、発症時の診断、脳血管に詰まった血栓を点滴で溶かす r-tPA 静注法、血管内カテーテル

認知症

診断や治療方針を詳しく説明

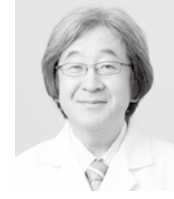


日本神経学会 認知症セクションチーフ
山田正仁教授(兼 茨城大学病院神経内科)

神経内科では、認知症の患者さん・ご家族から丁寧にお話を聴き、診断や方針などを詳しく説明します。病気の説明では、患者さんの「もの忘れ」は、病気が原因で本人のせいではないこと、その病気のためにご本人が一番困っている状態であることを説明し、さらに患者さんやご家族を支

パーキンソン病

早期に発見し治療を！一人一人にあったきめ細かな対応が大切



日本神経学会 運動障害セクションチーフ
服部信孝教授
(順天堂大学医学部附属順天堂医院脳神経内科)

パーキンソン病は原因不明の難病と言われましたが、研究が進み、早期に発見して治療をスタートすれば、運動機能の著しい低下を抑えることができます。最近ではパーキンソン病を早期に見ることがとても重要で、4大症状である①静止時のふるえ、②体(筋肉)のこわばり、③動作の緩慢・減少(無動)、④体の

てんかん

発作や症状に合わせて適切な治療薬を選びます



日本神経学会 てんかんセクションチーフ
宇川義一教授(福島県立医科大学附属病院神経内科)

日本ではてんかんというだけで偏見を持たれることがありますが、しっかりと治療をすれば、多くは普通に仕事をしながら生活を送ることができます。最近では65歳以上で発症する「高齢者てんかん」が増えています。原因は脳血管障害や認知症、脳腫瘍などが多いですが、診断が難しいことも多いので、神経内科では最新知識を備え、万全の態勢を整えています。

第55回日本神経学会学術大会について

大会長 吉良潤一 教授(九州大学病院神経内科)

5月21日から24日まで福岡国際会議場などで第55回日本神経学会学術大会が開催され、神経内科が扱う病気に関する最新の研究成果が発表されます。今年も日本国内から6千人を超える神経内科医が集まって、情報・意見の交換をする予定です。この大会によって、神経内科医は最新の医療情報や研究情報をいち早く、日々の診療に取り入れて、患者さんの治療に役立てています。今回の特徴は「福岡ブレインフェア」という一般市民向けの展示で、神経内科への理解を深めていただける講演も日替わりで予定しています。さらに5月25日には「九大ブレインフェア」という市民公開講座も開催されます。奮ってご参加下さい。



『こんなときは神経内科へ行く』
●ふくおかブレインフェア
5月22日(木)~24日(土) 10:00~17:00 福岡国際センター1Fアリーナ
●九大ブレインフェア
5月25日(日) 13:00~16:00 九州大学医学部百年講堂
*いずれも参加無料・事前受付不要
◆問い合わせ 第55回日本神経学会学術大会 運営事務局
FAX 092-716-7143 http://www.congre.co.jp/neuro55/

日本神経学会 神経内科フォーラム

グラクソ・スミスクライン株式会社

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル
http://glaxosmithkline.co.jp

